

## 第 14 回福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会議事概要

### I. 開催日時および場所

日時：2017 年（平成 29 年）5 月 31 日（水）14:00～16:00

場所：郡山中央公民館 第 5・6 講義室（郡山市麓山一丁目 8-4）

### II. 委員

別紙名簿の通り

### III. 資料

- 議事次第・席次表
- 資料 1 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会委員名簿（2017/5/31 版）
- 資料 2 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会（第 13 回）議事概要
- 資料 3 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進計画書（H28.3.29 版）
- 資料 4 平成 29 年度ビジョン実施計画（2017/5/25 版）
- 資料 4-2 平成 29 年度ビジョン推進体制・委員会等の構成
- 資料 5 第 4 回教職員による双葉郡子供未来会議実施報告（2017/1/17 実施）
- 資料 6 双葉郡地域学校協働本部パンフレット
- 資料 7 外部講師およびプログラム候補一覧（2017/5/25 版）
- 資料 8 双葉地区未来創造型リーダー育成構想（平成 29 年 3 月策定）
- 資料 8-2 「双葉地区未来創造型リーダー育成構想」のポイント
- 資料 9 平成 29 年度福島県内の双葉郡学習支援拠点一覧
- 資料 10 広報誌「ふたばの教育」vol.7\_2017 年春号
- 資料 11 ふたば未来学園高校 探求授業の進捗
- 資料 13 スーパーグローバルハイスクール
- 資料 14 福島 12 市町村将来像実現ロードマップ 2020 改訂版（概要）（案）
- 資料 15 H29 双葉郡学校現況調査表

### IV. 議事内容

#### 1. 開会

##### 1) 開会挨拶（武内敏英 大熊町教育委員会教育長）【資料 15】

- 3 月末から 4 月初めにかけて富岡と浪江の一部の避難指示区域が解除され、双葉郡 8 町村の帰還や教育状況が町村ごとに異なっている
- 現時点での双葉郡町村立学校への就園・就学率は 11・1%。この 4 年間ほぼ横ばい
- 各町村の復興計画、改正福島復興再生特別措置法、県教委の学校再開支援チーム、双葉地区未来創造型リーダー育成構想、12 市町村将来像実践ロードマップ 2020 などを視野に入れ、連携を図り、ビジョンの具現化に努めたい

##### 2) 自己紹介

#### 2. 前回議事概要【資料 2】、ビジョン推進計画書【資料 3】確認

- (全会) 承認

### 3. 議事

#### 1) ビジョン推進協議会に係る取組について

##### (1) 今年度の各取組進捗と委員会体制【資料4】【資料4-2】

- 今年度も教員による実行委員体制を継続すると共に、昨年度の取組を引き継ぐ。新しい取組として中学校生徒会連合(仮称)を計画

(委員意見)

- 6月に予定されている地域学校協働本部の会議の際は、文部科学省より職員を派遣し、地域学校協働本部及び社会教育法改正の趣旨や取組の方向性を説明させていただきたい

##### (2) 教員研修報告【資料5】

- 教員研修は町村や校種の枠を設けずに実施している。実践と省察の積み重ねが子ども達の成長を支え、未来をつくると考える
- 1月17日の研修は「評価のあり方」に焦点をあて、5月23日の研修は少人数でも学び合いは可能という視点で実施した。各校での実践に結び付けてほしい

(委員質問)

- 少人数であることを不安に思う保護者への解の一つが創造学や町村の垣根を超えることか → 大人数のほうが社会性が育つと考えがちだが、きちんとした自己表現が出来ないと社会性は発揮できない。小さな学校だからこそ出来ることを知らせながら、他との連携する場面を増やしていきたい。一例として、6月2日に富岡と葛尾の中学生合同授業を実施予定

##### (3) 双葉郡地域学校協働本部【資料6】【資料7】

- 現在、8町村すべてに地域コーディネーターがいる。墨田区と横浜にあるネットワークとも連携し、お互いの人材活用を進めている。郡内では双葉未来会議、うつくしまふくしま未来支援センター相双地域サテライトとも連携を図っている
- 5/27には中高連携バドミントン交流を開催。60名の中学生がふたば未来学園生徒に交流も兼ねて指導いただいた

(委員質問)

- 学校から地域にはどんな貢献ができるかという視点が弱いと感じるがどうか → 地域の方々が子供たちや学校に触れることで新しい発見をしていく、地域全体が学んでいくイメージ。例えば公民館活動と学校の連携

(委員意見)

- 各町村の地域コーディネーターが必ずしも専任ではないようなので、広野町には採用いただいているが、復興庁の応援職員制度を是非利用してほしい
- 保護者が否定されないような取組であるべき。子どもや教師だけでなく、保護者も共に学んでいかなければならない。巻き込む人達の数を増やしていくことが大事
- 学校と地域の協働は Win&Win でなければ長続きしない。学校の課題と地域・保護者の課題の共通項によって協働が成り立つ。現場設定が協働を長続きさせる大事なポイント

(4) 次年度取組の方向性

- 実行委員会体制の継続を原則とし、ふるさと創造学サミット、小・中高交流会は引き続き改善を加えながら進める。ふるさと創造学の更なる深化発展を目指し、教員研修会も継続
- 次年度以降の予算についても引き続き県から文科省へ今後の継続をお願いしていく

2) 福島県立ふたば未来学園高校・併設中学校について【資料 11】【資料 12】【資料 13】

(1) ふたば未来学園高校活動報告

- 生徒達の学びと地域復興の相乗効果をねらいとする未来創造探求授業は順調に進展
- 一年次探求での課題遭遇の設定、二・三年次探求での課題を深めて言語化する機会の設定など、カリキュラムの改善にも取り組んでいる
- 4月からNPOカタリバによる学習支援も開始。放課後学習会については、ゆくゆくは広野、檜葉、いわきなど、近隣の通える中学生にも参加してほしい

(2) ふたば未来学園中高一貫教育検討協議会報告

- 併設中学校はH31年度開校。今年度から広報活動を開始し、次年度は入学者募集となる。教育内容等について6月の第4回検討協議会を踏まえて中間まとめを公表。年度内に最終まとめ予定
- ビジョン事務局の協力を得ながら今年度の早い段階で双葉郡の子どもたちの思いを聞く機会を設け、最終まとめに取り込みたい

(委員質問)

- 郡内の他の中学校との兼ね合いについての議論はこれからか→入試枠の設定等についても今後意見をいただく予定

3) 双葉地区未来創造型リーダー育成構想について【資料 8】【資料 8-2】

- 双葉地区教育構想を改訂し、これまでの3町村から8町村に拡大しての推進体制となった。今後の5年間を見据えたグランドデザインで未来創造型リーダーの育成を目的とする。ビジョンとも連携しながら進めていきたい

4) その他

(1) 委員からの情報共有

- 【資料 14】福島12市町村将来像実現ロードマップ2020改訂版には小中学校の魅力ある教育の推進についても追記した。学校教育の支援についてはコーディネーターを充実し、IT、スポーツなど子供の学習を支援。あわせて学校以外の生活環境についても、産業の創出、環境整備、インフラ整備等にも更に力を入れて取り組み、両方から学校を支える体制をつくっていきたい

(委員意見)

- 30~40年後は今の子供たちが社会の中心。「未来を担う、地域を担うひとづくり」を柱に打ち出し、その他の課題をそれぞれ関連付ける視点が大事ではないか

- 【資料 9】今年度も引き続き学習支援拠点が実施されている。一覧表は後日データで各町村教育委員会と共有予定
- (2) 次回協議会開催予定
  - 次回は 12 月～1 月に開催を予定

#### 4. 閉会

以上